

# 中小企業動向調査

この調査は富山県内企業422社を対象に実施し、299社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成22年10月～12月の実績、平成23年1月～3月の見込み、平成23年4月～6月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成22年12月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	199	142	71.4%
非 製 造 業	223	157	70.4%
計	422	299	70.9%

日銀が2月8日に公表した、北陸の金融経済月報（2011年2月）によると、「北陸の景気は、持ち直しの動きが弱まりつつある。」としている。

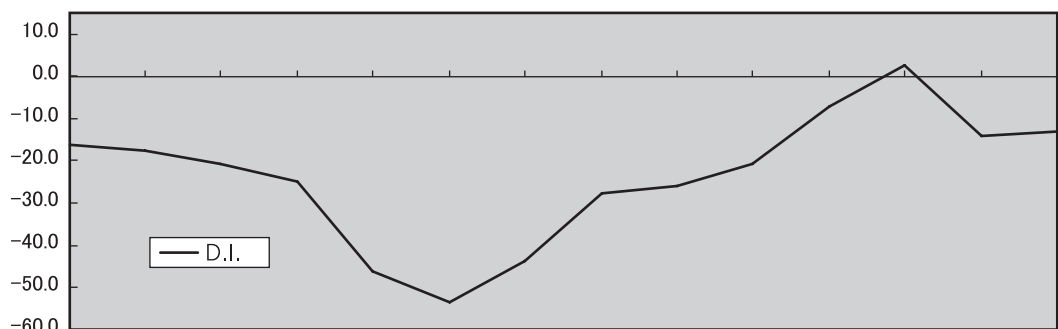
「最終需要をみると、輸出は、為替円高や海外での一部製品の在庫調整の影響から増加ペースが鈍化している。設備投資、住宅投資は下げ止まっており、個人消費も一部政策効果の減少がみられるものの、全体としては下げ止まりつつある。公共投資は減少している。

先行きは、中国等アジアを中心とした海外需要増を背景に、持ち直しの動きが徐々に強まっていくとみられる。もっとも海外経済の不確実性や為替相場変動の影響について注意が必要であることから、慎重にみていく必要がある。」としている。

## I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

期別 種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
良 い	12.6	12.9	8.4	9.4	4.4	3.4	3.6	7.9	11.0	11.1	16.2	20.8	8.7	9.4
普 通	58.4	56.6	62.2	56.3	44.7	39.8	49.0	56.4	52.0	56.8	60.5	61.1	68.1	68.1
悪 い	29.0	30.5	29.4	34.4	50.9	56.8	47.4	35.6	37.0	32.1	23.3	18.1	23.2	22.5
D . I .	-16.4	-17.6	-21.0	-25.0	-46.5	-53.4	-43.9	-27.7	-26.0	-21.0	-7.1	2.7	-14.4	-13.1

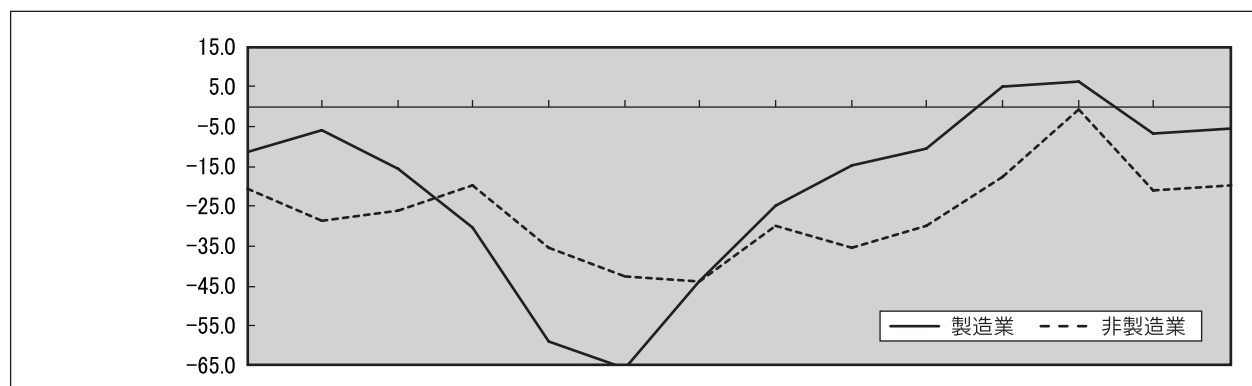


企業概況の推移…… (うち製造業のみ)

		20 年												21 年		22 年		23年	
種別	期別	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～				
		3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月				
良	い	14.6	16.3	10.2	8.4	2.6	0.7	5.7	10.0	20.5	17.7	24.3	27.0	12.8	12.8				
普	通	59.1	61.2	64.1	52.6	35.5	33.1	44.7	55.0	43.8	53.7	56.4	52.5	67.4	68.8				
悪	い	26.3	22.5	25.7	39.0	61.9	66.2	49.6	35.0	35.6	28.6	19.3	20.6	19.9	18.4				
D . I .		-11.7	-6.2	-15.6	-30.5	-59.4	-65.6	-44.0	-25.0	-15.1	-10.9	5.0	6.4	-7.1	-5.7				

企業概況の推移…… (うち非製造業のみ)

		20 年												21 年		22 年		23年	
種別	期別	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～				
		3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月				
良	い	10.8	9.7	6.7	10.2	6.0	5.8	1.8	6.1	2.9	5.4	9.0	15.3	5.1	6.4				
普	通	57.7	52.2	60.6	59.6	52.5	45.7	52.7	57.7	59.0	59.5	64.1	68.8	68.8	67.5				
悪	い	31.4	38.2	32.8	30.1	41.5	48.6	45.6	36.2	38.2	35.1	26.9	15.9	26.1	26.1				
D . I .		-20.6	-28.5	-26.1	-19.9	-35.5	-42.8	-43.8	-30.1	-35.3	-29.8	-17.9	-0.6	-21.0	-19.7				



- こうした北陸の状況の中で富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」の22年10～12月期実績は2.7と前期比9.8ポイント改善した。先行きについて、23年1～3月期のD.I.は▲14.3となり、年度末に向けては悪化していく予想となっている。23年4～6月期予想は▲13.1とは悪化予想となっている。
- 業況判断指数D.I.の22年10～12月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より1.4ポイント改善し、+6.4となった。先行きについては、再び悪化予想となっている。非製造業では、前期比17.3ポイント改善し、▲0.6となった。非製造業は改善してきている。先行きの23年1～3月期は悪化予想となっている。23年4～6月期も▲19.7と悪化予想となっている。

## II. 売上高状況

売上高状況

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
増加	30.1	26.5	26.0	18.5	11.8	12.7	10.0	14.5	28.0	34.5	43.3	32.8	29.1	28.1
横ばい	39.2	41.2	40.9	35.4	28.0	24.1	24.9	29.9	36.2	34.8	30.2	35.5	51.8	53.2
減少	30.7	31.6	33.1	46.1	60.2	63.2	65.0	55.6	35.8	30.7	25.5	21.7	19.0	18.7
D. I.	-0.5	-5.7	-7.1	-27.6	-48.4	-50.5	-55.0	-41.1	-7.9	3.8	18.8	21.1	10.0	9.4

売上高状況 (うち製造業のみ)

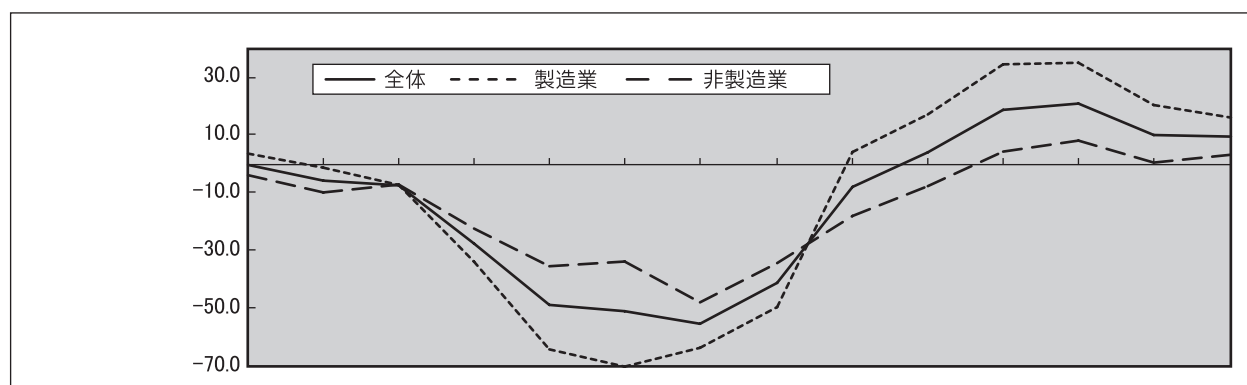
(%) 見込 予測

種別 \ 期別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
増加	34.0	30.6	28.6	17.1	7.8	7.4	7.8	13.4	35.6	43.9	54.2	54.2	33.8	34.5
横ばい	3.5	37.8	35.7	32.2	20.6	15.4	20.6	23.9	32.9	29.1	26.1	26.8	52.8	47.2
減少	30.4	31.7	35.7	50.7	71.6	77.2	71.6	62.7	31.5	27.0	19.7	19.0	13.4	18.3
D. I.	3.5	-1.1	-7.1	-33.6	-63.9	-69.8	-63.8	-49.3	4.1	16.9	34.5	35.2	20.4	16.2

売上高状況 (うち非製造業のみ)

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
増加	26.8	22.8	23.6	19.8	15.2	17.2	11.9	15.4	21.5	26.2	35.3	32.5	24.8	22.3
横ばい	42.3	44.4	45.6	38.3	34.2	31.6	28.6	35.2	39.0	39.9	34.0	43.3	51.0	58.6
減少	30.9	32.8	30.8	41.9	50.5	51.1	59.5	49.4	39.5	33.9	30.8	24.1	24.2	19.1
D. I.	-4.1	-10.1	-7.1	-22.2	-35.3	-33.9	-47.6	-34.0	-18.0	-7.7	4.5	8.3	0.6	3.2



- (1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。今回調査では、D.I.は21.1となり、前期より2.3ポイント改善となった。先行きについて、23年1～3月期のD.I.は10.0と悪化、23年4～6月は9.4と1～3月期と横ばいで悪化予想となっている。
- (2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けると、製造業は横ばい、非製造業はやや改善となった。製造業は0.7ポイント、非製造業は3.8ポイント改善した。先行きについて、製造業、非製造業とも、悪化予想となっている。

### Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

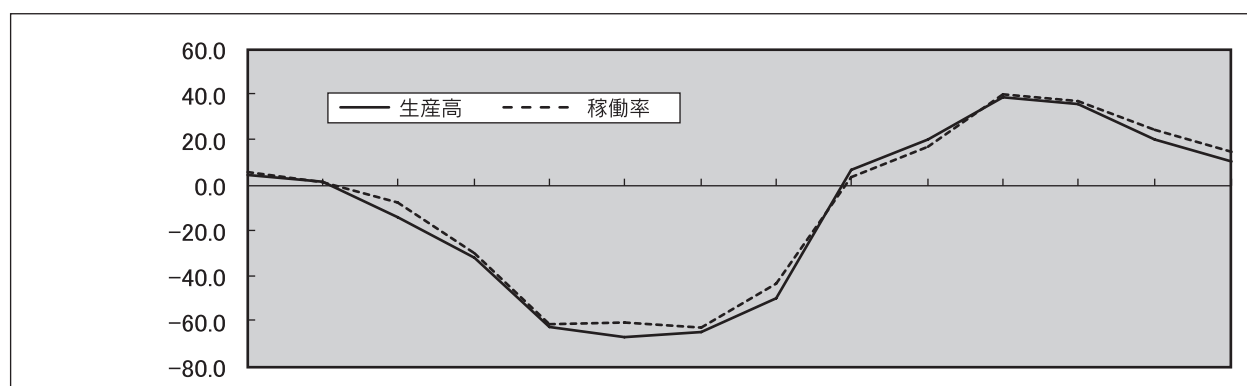
(%) 見込 予測

期別 種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
20%以上増加	4.4	5.9	1.8	1.9	1.3	0.7	0.0	2.2	12.9	19.4	19.9	20.0	9.6	5.2
20%未満増加	28.8	24.1	21.2	14.6	5.9	5.2	7.1	9.5	24.3	26.6	35.5	33.3	23.7	25.2
横ばい状況	38.1	41.2	39.4	34.8	22.9	21.6	20.6	26.3	32.1	28.1	28.4	28.9	53.3	49.6
20%未満減少	25.6	26.5	30.3	35.4	33.3	32.7	36.2	38.0	22.1	18.7	15.6	15.6	11.1	16.3
20%以上減少	3.1	2.4	7.3	13.3	36.6	39.9	36.2	24.1	8.6	7.2	0.7	2.2	2.2	3.7
D . I .	4.4	1.2	-14.5	-32.3	-62.7	-66.7	-65.2	-50.4	6.4	20.1	39.0	35.6	20.0	10.4

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
上 昇	4.6	7.2	2.6	1.9	0.7	0.7	0.0	2.9	13.6	21.4	22.3	19.4	9.7	8.2
やや上昇	27.8	21.7	19.9	13.5	5.4	6.6	8.1	10.2	22.9	22.1	31.7	34.3	26.1	23.9
横ばい	40.4	43.4	47.4	39.1	26.2	25.0	21.3	29.9	30.7	30.0	32.4	29.1	52.2	50.7
やや下降	23.8	25.3	24.4	30.1	30.2	22.4	33.1	38.0	22.9	18.6	11.5	15.7	10.4	14.2
下 降	3.3	2.4	5.8	15.4	37.6	45.4	37.5	19.0	10.0	7.9	2.2	1.5	1.5	3.0
D . I .	5.3	1.2	-7.7	-30.1	-61.7	-60.5	-62.5	-43.8	3.6	17.1	40.3	36.6	23.9	14.9



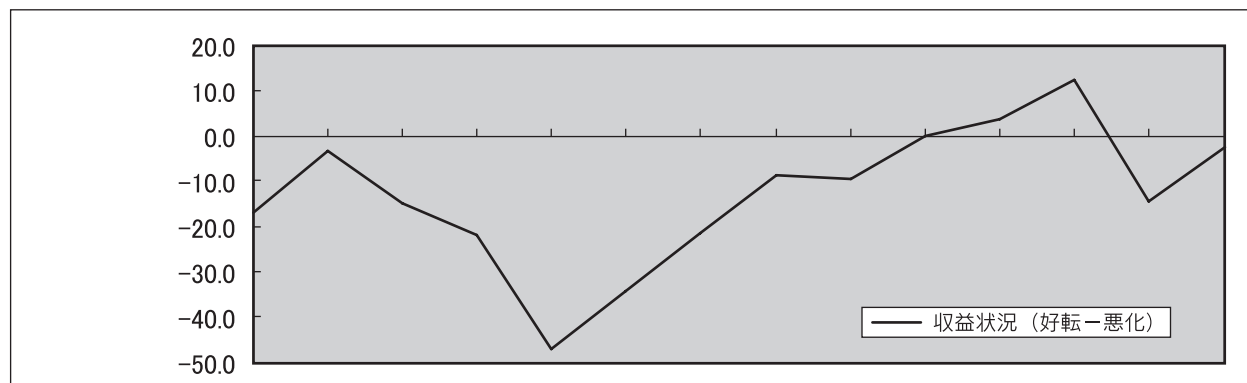
- (1) 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.Iは、前期比3.4ポイント悪化となった。先行きについても、悪化予想となっており、23年1～3月期は20.0、4～6月は10.4となっている。
- (2) 稼働率状況D.Iは、前期比3.7ポイント悪化し、D.Iは36.6となった。先行きについても、生産高同様に悪化見込となっており、1～3月期は23.9となり、23年4～6月期は更に悪化し14.9と予想している。稼働率も売上高同様に改善しているが、先行きは悪化予想の回答となった。

## IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
好 転	16.1	20.1	12.7	12.7	5.6	11.1	13.5	17.1	19.0	21.1	20.9	27.3	11.8	15.2
横 ば い	50.8	56.5	59.5	52.8	41.9	43.5	51.4	57.2	52.3	57.7	61.8	57.9	62.0	66.9
悪 化	33.1	23.4	27.7	34.5	52.5	45.4	35.0	25.7	28.7	21.1	17.2	14.8	26.3	17.9
D . I .	-16.9	-3.3	-15.0	-21.7	-46.9	-34.3	-21.5	-8.6	-9.7	0.0	3.7	12.5	-14.5	-2.7



好転理由

(%) 見込 予測

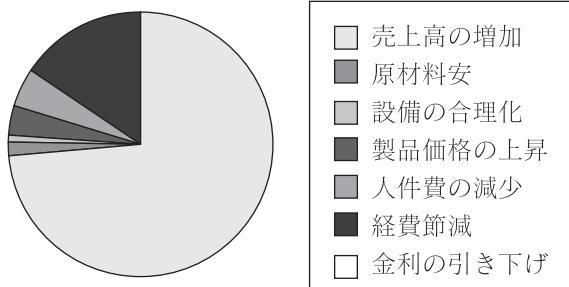
種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
売上高の増加	58.9	57.0	65.1	64.3	52.5	49.2	63.9	54.2	63.3	62.5	64.4	73.6	63.5	75.4
原材料安	2.2	0.9	4.8	14.3	12.5	6.6	8.2	11.1	5.1	4.5	1.1	1.8	3.8	3.1
設備の合理化	2.2	1.9	0.0	1.8	5.0	6.6	1.6	2.8	3.8	2.3	5.6	0.9	3.8	1.5
製品価格の上昇	14.4	17.8	11.1	5.4	0.0	1.6	0.0	0.0	2.5	5.7	2.2	3.6	9.6	4.6
人件費の減少	5.6	6.5	3.2	1.8	12.5	18.0	11.5	12.5	10.1	9.1	7.8	4.5	7.7	6.2
経費節減	13.3	15.9	12.7	12.5	17.5	6.4	14.8	19.4	15.2	15.9	17.8	15.5	11.5	9.2
金利の引き下げ	3.3	0.0	3.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0

悪化理由

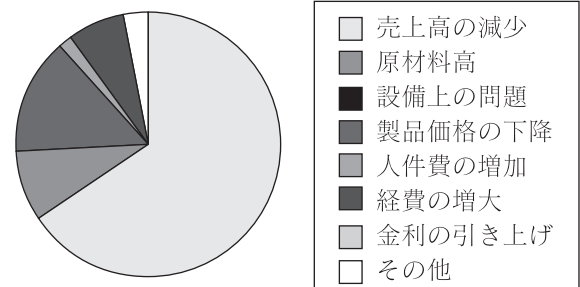
(%) 見込 予測

種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
売上高の減少	53.0	46.2	43.3	60.6	68.6	64.9	62.7	68.1	65.2	56.1	56.4	65.7	64.8	59.0
原材料高	29.2	31.7	30.4	14.3	6.3	4.8	3.6	4.2	5.0	13.2	7.7	8.6	12.4	15.4
設備上の問題	0.0	0.0	1.8	0.0	0.8	1.0	1.2	1.7	1.4	0.9	1.3	0.0	1.0	1.3
製品価格の下降	4.8	4.8	8.2	11.4	12.5	18.3	16.6	14.3	13.5	14.9	16.7	14.3	14.3	17.9
経費の増大	5.4	9.0	9.4	6.9	5.1	5.3	7.7	5.0	5.0	5.3	6.4	1.4	3.8	5.1
人件費の増加	5.4	4.8	4.1	4.0	4.7	4.8	4.1	3.4	2.8	7.0	6.4	7.1	3.8	1.3
金利の引き上げ	0.6	1.4	0.6	0.0	0.4	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そ の 他	1.8	2.1	2.3	2.9	1.6	0.5	3.6	3.4	7.1	2.6	5.1	2.9	0.0	0.0

好転理由



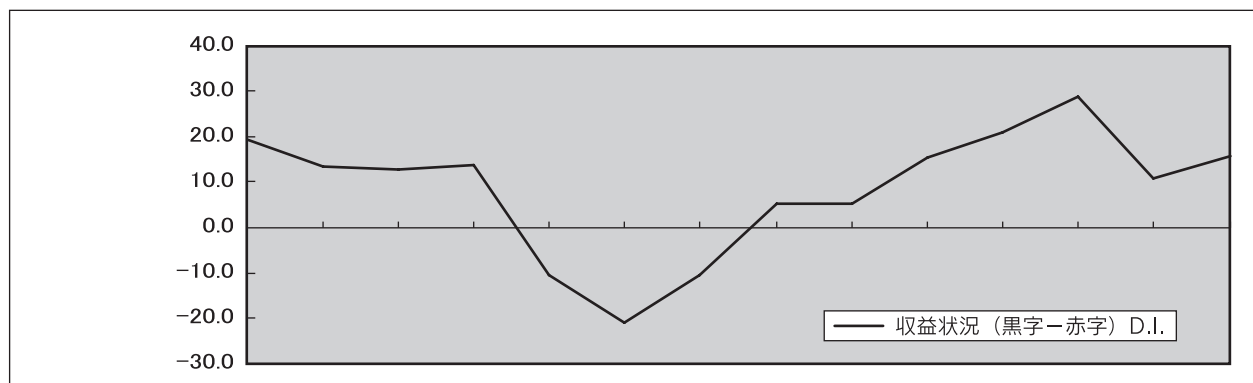
悪化理由



- (1) 収益状況「好転－悪化」D.I.は、12.5と前期比8.8ポイント改善となった。先行きについては悪化予想となっており、10～12月がD.I.のピークとなった。先行きは、23年1～3月期▲14.5、4～6月期も▲2.7とマイナスポイントとなっている。
- (2) 今期収益が好転した理由は、「売上高の増加」とするポイントが全体の73.6%となり増加した。製品価格の上昇とするポイントも1.4ポイント増加となっている。また、設備の合理化や経費節減を理由とするポイントは減少した。先行きについては、好転には売上高の増加を理由とするポイントが最も高い。
- (3) 収益が悪化した理由は、「売上高の減少」とするポイントが最も高く、次に「製品価格の下降」となっている。「原材料高」「人件費の増加」も前期比増加している。「売上高の減少」を理由とするポイントは前期比増加しており、先行きについても悪化理由として高い予想となっている。

収益状況（黒字－償却後赤字）

期別 種別	(%)													
	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
黒 字	39.1	34.7	34.3	36.6	25.0	19.0	23.5	27.0	28.5	36.0	41.7	43.2	30.3	33.2
収支トントン	41.3	44.1	44.1	40.4	39.6	41.1	42.6	51.3	48.3	43.3	37.6	42.5	50.3	49.3
償却後赤字	19.7	21.2	21.6	23.0	35.4	39.9	33.9	21.7	23.2	20.7	20.7	14.3	19.4	17.5
D . I .	19.4	13.5	12.7	13.6	-10.4	-20.9	-10.3	5.3	5.3	15.3	21.0	28.9	10.9	15.8



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は、前期比7.9ポイント改善し、28.9となった。今回は、償却後赤字とする回答が減少した。先行きについては、23年1～3月期は悪化予想となり、4～6月には改善予想となっている。収益状況も改善してきており、D.I.は今期がピークとなった。

## V. 製品在庫水準

製品在庫水準

(%) 見込 予測

期別 種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不足	1.7	2.7	3.3	1.5	1.5	2.2	3.5	3.1	1.1	4.5	4.9	6.2	5.0	4.5
適正	86.3	86.2	85.1	86.0	78.0	79.2	84.0	83.5	87.7	87.2	87.8	84.8	87.6	88.0
過剰	11.9	11.1	11.6	12.5	20.5	18.6	12.5	13.3	11.1	8.3	7.3	9.1	7.4	7.4
D . I .	-10.2	-8.4	-8.3	-11.1	-19.0	-16.4	-9.0	-10.2	-10.0	-3.8	-2.4	-2.9	-2.5	-2.9

製品在庫水準（うち製造業のみ）

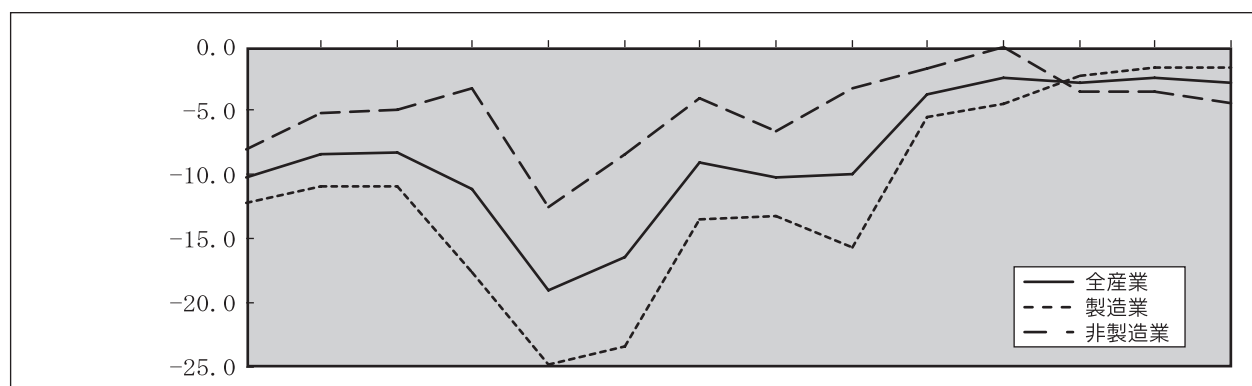
(%) 見込 予測

期別 種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不足	1.3	1.2	2.6	1.4	0.7	2.1	4.5	3.7	0.0	5.5	5.2	7.8	6.3	5.5
適正	85.3	86.6	84.0	79.7	73.8	72.4	77.4	79.3	84.3	83.4	85.1	82.2	85.9	87.5
過剰	13.5	12.2	13.5	18.9	25.5	25.5	18.0	17.0	15.7	11.0	9.7	10.1	7.8	7.0
D . I .	-12.2	-11.0	-10.9	-17.6	-24.8	-23.4	-13.5	-13.3	-15.7	-5.5	-4.5	-2.3	-1.6	-1.6

製品在庫水準（うち非製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不足	2.2	4.5	4.2	1.6	2.3	2.3	2.4	2.5	2.5	3.3	4.5	4.4	3.5	3.5
適正	87.6	85.8	86.7	93.5	82.8	86.8	91.1	88.3	91.7	91.7	91.0	87.7	89.5	88.6
過剰	10.2	9.7	9.2	4.9	14.8	10.9	6.5	9.2	5.8	5.0	4.5	7.9	7.0	7.9
D . I .	-8.0	-5.2	-5.0	-3.3	-12.5	-8.5	-4.1	-6.7	-3.3	-1.7	0.0	-3.5	-3.5	-4.4



(1) 全産業の製品在庫水準「不足－過剰」D.I.は、22年10～12月期は▲2.9となり、前期比0.5ポイントの悪化となっている。先行きについても、現在のポイントで横ばいであり、在庫過剰感の高い回答となっている。

(2) 業種別では、製造業の過剰とのポイントが高いが、D.I.は改善している。非製造業のD.I.は▲3.5となり前期比悪化となった。先行きについては、23年4～6月期は今期の横ばいとなり過剰感が高い。

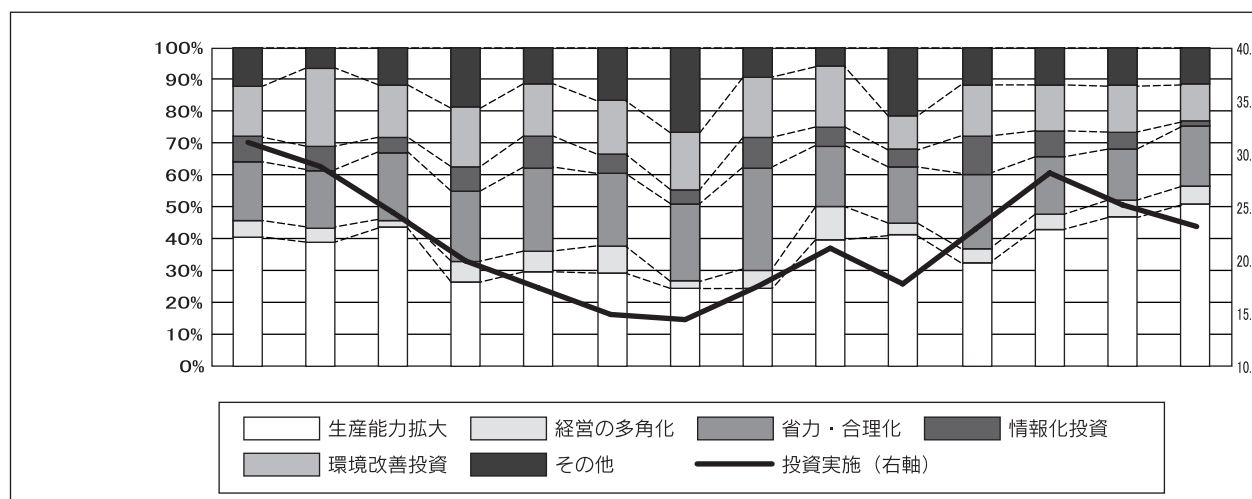
## VI. 設備投資動向

設備投資の有無

期別 種別	(%)													
	20 年				21 年				22 年				見込 予測 23年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
投資実施	31.1	28.8	24.4	19.8	17.3	14.8	14.4	17.4	21.0	17.7	22.8	28.1	25.1	23.1
投資せず	68.8	71.2	75.6	80.2	82.7	85.2	85.6	82.6	79.0	82.3	77.2	71.9	74.9	76.9

設備投資の目的（実施先について）

	(%)													
生産能力拡大	40.4	38.7	43.5	26.6	29.5	29.2	24.4	24.5	39.7	41.1	32.4	42.9	46.7	50.7
経営の多角化	5.3	4.7	2.4	6.3	6.6	8.3	2.2	5.7	10.3	3.6	4.4	4.8	5.3	5.8
省力・合理化	18.4	17.9	21.2	21.9	26.2	22.9	24.4	32.1	19.1	17.9	23.5	17.9	16.0	18.8
情報化投資	7.9	7.5	4.7	7.8	9.8	6.3	4.4	9.4	5.9	5.4	11.8	8.3	5.3	1.4
環境改善投資	15.8	24.5	16.5	18.8	16.4	16.7	17.8	18.9	19.1	10.7	16.2	14.3	14.7	11.6
その他	12.3	6.6	11.8	18.8	11.5	16.7	26.7	9.4	5.9	21.4	11.8	11.9	12.0	11.6



(1) 22年10～12月に設備投資を実施した企業は全産業の28.1%と、前期比5.31ポイント増加した。投資実施企業は前期より増加傾向となっている。先行きについては、23年1～3月期は25.1%、4～6月期は23.1%と高くなっている。目的別では、生産能力の拡大が最も高く、次に省力合理化、環境改善投資と前期と同じ項目となっている。

(2) 業種別では、ポイントが高い順に「電子部品製造」「出版印刷紙加工」「アルミ製品」「高岡銅器」となっている。目的別では、生産販売能力拡大とするポイントが最も高いが、「アルミ製品」や「卸売業」では環境改善を目的とするポイントも高くなっている。先行きについては、省力合理化、環境改善投資も増加予想となっている。

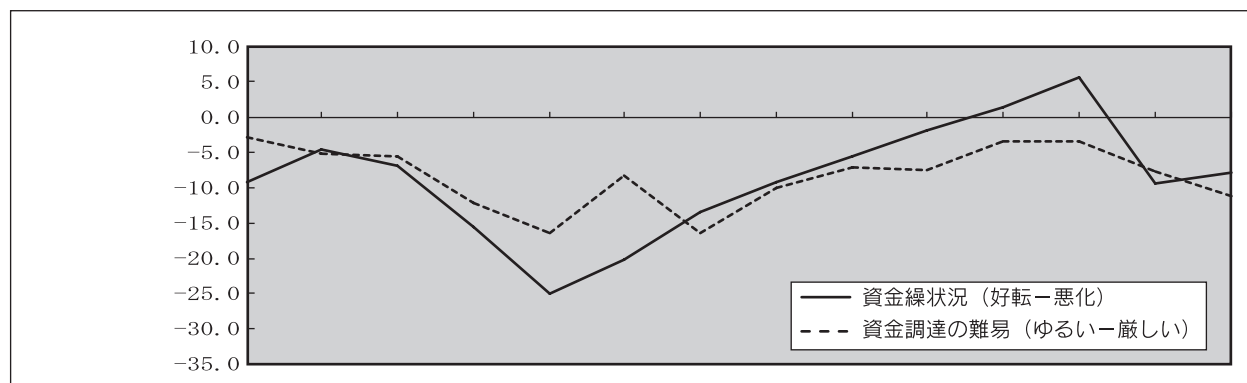


## VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
好 転	7.4	8.5	6.0	4.4	5.0	6.2	7.7	5.9	9.0	10.1	9.8	13.7	4.3	6.4
変 わ ら ず	76.0	78.4	81.0	75.5	65.0	67.3	71.0	79.1	76.3	77.9	81.8	78.3	81.9	79.3
悪 化	16.7	13.2	12.9	20.1	30.0	26.5	21.3	15.0	14.6	12.0	8.4	8.0	13.7	14.4
D . I .	-9.3	-4.7	-6.9	-15.7	-25.0	-20.4	-13.5	-9.2	-5.6	-1.9	1.3	5.7	-9.4	-8.0



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

期別 種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
ゆ る い	12.2	7.9	7.5	5.9	4.4	5.9	5.1	7.3	9.7	10.2	9.6	9.9	7.8	7.5
厳 しく ない	72.8	79.0	79.3	75.9	74.9	79.9	73.3	75.4	73.3	72.1	77.3	76.9	76.5	73.8
厳 し い	15.0	13.1	13.2	18.1	20.7	14.2	21.5	17.3	17.0	17.8	13.1	13.3	15.6	18.7
D . I .	-2.8	-5.2	-5.7	-12.2	-16.3	-8.3	-16.4	-10.0	-7.2	-7.6	-3.4	-3.4	-7.8	-11.2

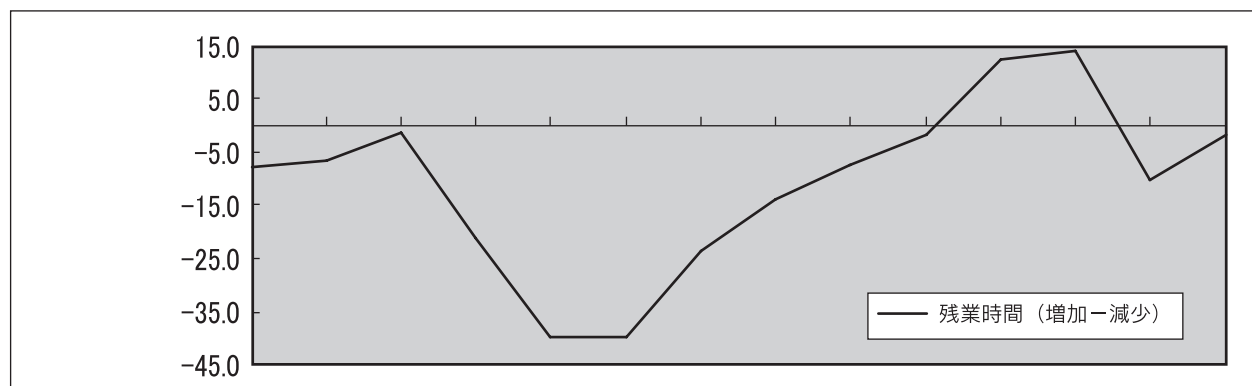
(1) 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は、前期比4.4ポイント改善され+5.7となった。資金繰り状況は好転傾向にあったが、先行きは悪化予想となっている。23年1～3月期は▲9.4とマイナスポイントとなっている。4～6月期も▲8.0と好転との回答は少ない。

(2) 資金調達の難易D.I.「ゆるい－厳しい」では、▲3.4と前期と同じポイントとなった。先行きについては悪化の予想となっている。製造業、非製造業別では非製造業が厳しいとの回答が多く、D.I.は▲4.6、製造業は▲2.1となっている。業種別では、繊維、土木業、不動産が厳しいとの回答が高い。ゆるいとのポイントが高い業種は、高岡銅器、木工建具であった。

## VIII. 労務事情

残業時間

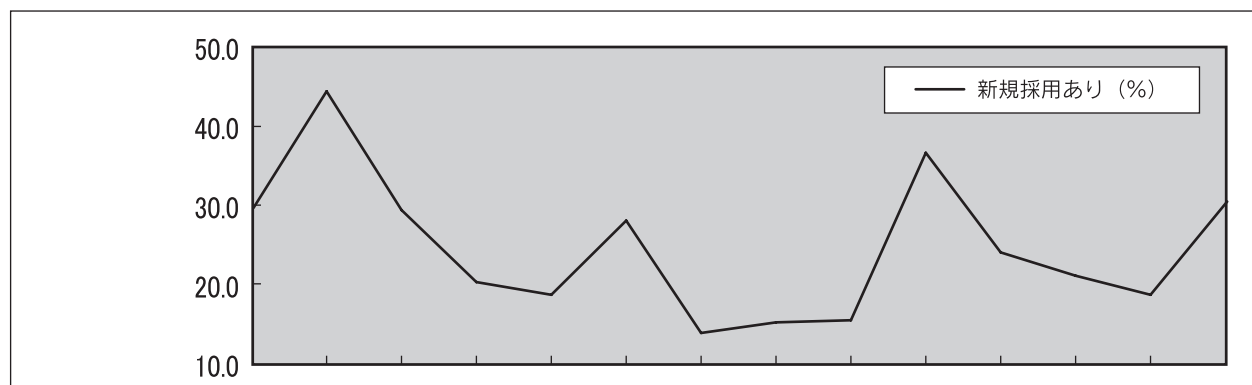
期別 種別	20 年												21 年				22 年				23年	
	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～								
	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月								
増加	14.3	12.4	17.6	10.0	6.5	4.3	11.3	12.1	15.4	19.0	22.4	24.6	12.3	11.6								
横ばい	63.1	68.4	63.4	58.5	47.4	51.6	53.6	61.6	61.4	60.0	67.2	64.8	64.8	74.6								
減少	22.5	19.2	19.0	31.6	46.1	44.1	35.1	26.3	23.2	21.0	10.3	10.6	22.9	13.7								
D.I.	-8.2	-6.8	-1.4	-21.6	-39.6	-39.8	-23.7	-14.2	-7.8	-2.1	12.1	14.1	-10.6	-2.1								



- (1) 残業時間D.I.は22年10～12月期+14.1となり、前期比2.0ポイント増加した。残業時間は増加してきており、今期はD.I.ポイントが最も高くなった。先行きについては、23年1～3月期は▲10.6と減少予想となっている。業種別ではほとんどが増加の回答となった。特にポイントが高いのは、金属製品製造、窯業土石であった。減少の回答は自動車販売、宿泊業、百貨店スーパーだった。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

期別 種別	20 年				21 年				22 年				23年	
	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～
	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月
全産業	29.7	44.5	29.3	20.1	18.6	28.1	14.0	15.2	15.3	36.5	24.1	20.9	18.6	30.5
(うち製造業)	30.9	43.2	30.6	18.0	15.0	22.7	10.0	12.9	15.6	34.5	31.9	22.5	15.6	30.9
(うち非製造業)	28.7	45.7	28.1	22.0	21.5	32.8	17.4	17.2	15.1	38.3	17.0	19.5	21.4	30.1

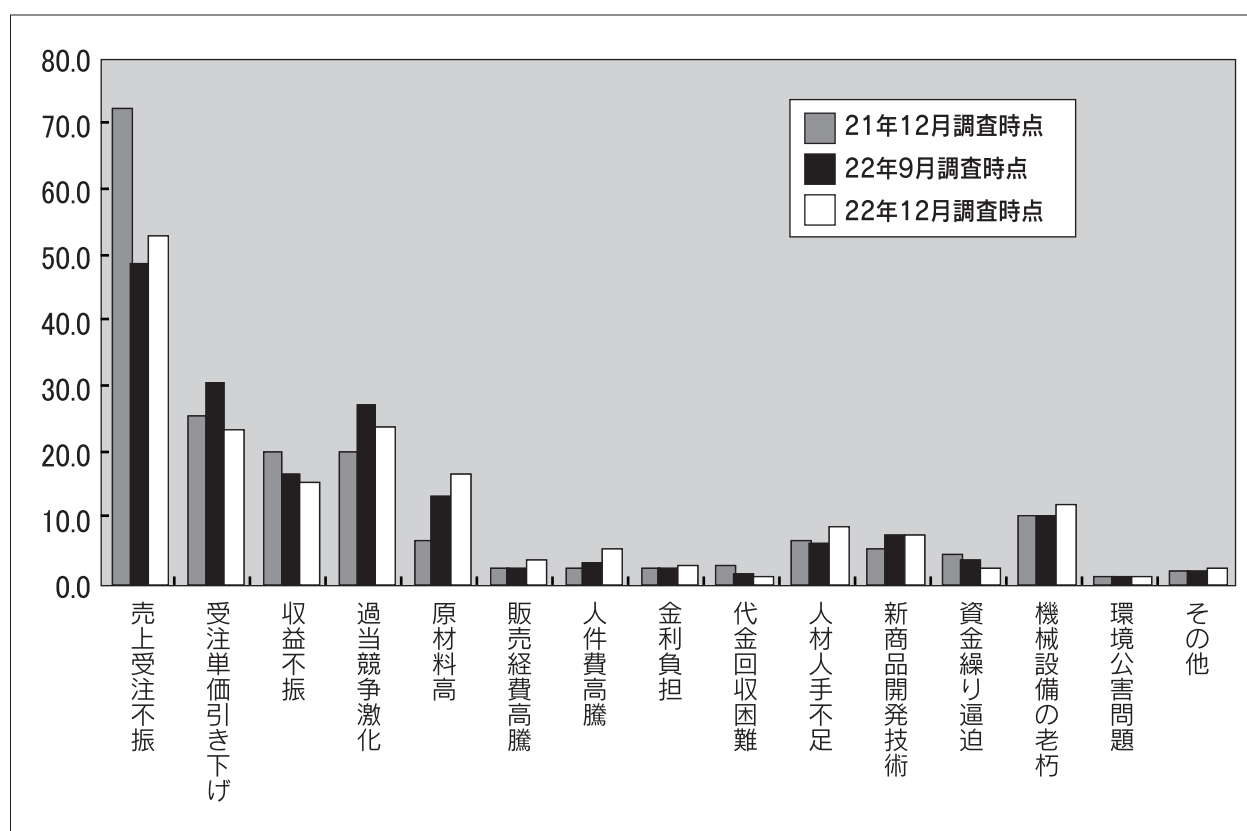


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、全産業の20.9%が新規採用を行っている。製造業では22.5%が採用を行っており、前年同期比9.6ポイント増加している。非製造業は2.3ポイント増加であった。

## IX. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	21年12月 (前年)	22年9月 (前回)	22年12月 (今回)	22年12月		前回は増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	72.1	48.7	52.8	(51.4)	(54.1)	4.1
受注単価引き下げ	25.2	30.2	23.1	(23.2)	(22.9)	-7.1
収益不振	19.7	16.4	15.4	(15.5)	(15.3)	-1.0
過当競争激化	19.7	27.2	23.7	(17.6)	(29.3)	-3.5
原材料高	6.2	13.1	16.4	(23.2)	(10.2)	3.3
販売経費高騰	2.0	2.0	3.3	(2.8)	(3.8)	1.3
人件費高騰	2.3	3.0	5.0	(3.5)	(6.4)	2.0
金利負担	2.0	2.3	2.7	(2.8)	(2.5)	0.4
代金回収困難	2.6	1.3	0.7	(0.0)	(1.3)	-0.6
人材人手不足	6.2	6.0	8.4	(9.2)	(7.6)	2.4
新商品開発技術	4.9	7.0	7.0	(12.7)	(1.9)	0.0
資金繰り逼迫	4.3	3.4	2.3	(0.7)	(3.8)	-1.1
機械設備の老朽	10.2	10.1	11.7	(14.1)	(9.6)	1.6
環境公害問題	1.0	1.0	0.7	(1.4)	(0.0)	-0.3
その他	1.6	1.7	2.0	(1.4)	(2.5)	0.3



- (1) 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振52.8%(前期4.1ポイント)、②過当競争激化23.7(前期比▲3.5ポイント)、③受注単価引下げ23.1%(前期比▲7.1ポイント)の順になっている。
- (2) 今回調査では、売上受注不振、原材料高は前期比増加となるが受注単価引下げ、ポイントは減少し、過当競争激化も減少した。
- (3) 業種別では、宿泊業、土木業では売上受注不振を問題点とする回答が70%以上となった。受注単価引下げ、過当競争激化、原材料高を50%以上の問題点とする業種もある。

## X. 為替変動に対する影響

%

項 目		22年10~12月	見込 23年1~3月	予測 23年4~6月
売 上 高	好 転	0.4	0.4	0.8
	悪 化	6.9	7.7	5.7
	影響なし	92.7	91.9	93.5
仕 入 高	好 転	3.6	2.4	2.5
	悪 化	5.7	6.1	4.9
	影響なし	90.7	91.4	92.6
営 業 利 益	好 転	2.0	1.6	1.6
	悪 化	7.3	9.0	7.0
	影響なし	90.6	89.3	91.4

今回の調査より、為替変動による影響について調査を行った。見込、予測については、前期比の予想について回答を求めた。247社からの回答があり、約9%の企業が影響があると回答があった。

影響があると回答のうち、好転したより悪化したとの回答が多かった。

業種別では、売上高が好転との回答は木材業であり、悪化は機械工業、繊維業、アルミ製品製造の順にポイントが高かった。

仕入に対する影響では、好転とのポイントが高いのは木工建具であり、悪化は運輸業が高いポイントとなった。